

第 1 回学校運営協議会議事録

校名	府立東百舌鳥高等学校
校長名	浜田 佳樹

開催日時	令和 4 年 6 月 21 日(火) 15:00 ~ 17:00
開催場所	大阪府立東百舌鳥高等学校 1階 会議室
出席者(委員)	伊井直比呂 会長、梶山尚也 副会長(書面による参加) 青木浩子 委員、時本亜希子 委員(書面による参加)
出席者(学校)	浜田佳樹 校長、夏川照章 教頭、平井啓一 事務長、福島洋平 首席 藤木徹、宮本晋一、伊田清悟、郡山鷹子、本山美紗子、瀬藤良太、中尾直美
傍聴者	0 名
協議資料	令和4年度 学校経営計画及び学校評価、令和4年度 学校教育計画、 令和4年度 学校教育目標の自己評価票
備考	

議題等(次第順)

議題等(次第順)

- ・学校運営協議会会長・副会長の選出 ・校長挨拶 ・学校運営協議会会長挨拶
- ・学校運営協議会委員及び事務局関係者自己紹介
- ・協議 (1)令和4年度 学校経営計画について
(2)令和4年度 学校教育計画について
(3)令和4年度 学校教育目標の自己評価票について

協議内容・承認事項等(意見の概要)

●質疑・提言等

・「ひがも塾」の現在の様子はどうか？

⇒1年は水金の週2回開催し、10名ほどが参加。自学自習が基本。月7の時間を有効活用する予定。2・3年は期末考査2週間前に呼びかけ、学習計画のサポートをしている。学習サポーターとして大阪公立大学生等の学習支援をお願いしているが、新型コロナウイルス感染防止の観点から2年間開催できていないので、今年度は再開したい。

・相互授業見学はどのように進めているか？

⇒相互授業見学週間を6月と11月の年2回実施。特に11月は見学後の研究協議において、授業方法や評価方法等の協議を行い、より充実するように取り組む。また、今年は観点別評価の初年度であり、昨年度から実施している教員研修(年7回開催)での評価基準に関する協議内容をさらに整理して、成績処理が滞りなく終了するように、引き続き教員研修を充実させ、全教員で取り組んでいる。

・(1人1台)端末を授業でどのように活用されているか？

⇒従来からiPadで活用しているプロジェクターによる教材提示だけでなく、生徒個人へのスライド共有などができることに気づいた。授業としては、特に探究学習の時間にGoogleのアプリを活用し、情報の整理や情報共有、発表等で利用率が高くなっている。コロナ禍による出席停止者に対する学習支援として、今年度よりZoomからGoogle meetに変更し、科目担当者主体でライブ授業の配信に取り組むようにしている。Chrome 端末の活用については今後も情報収集を進めていく。

・SNS上での人権擁護や個人情報の取扱に関する指導はどのように実施されているか？また、詐欺被害等のトラブルはないか？

⇒学年は1年生で、教科では情報科が主体となって進めている。詐欺被害等は成人年齢が18歳に引き下げられたことを受けて、家庭科や公民で指導している。

・コロナ禍により学校生活が大きく変化していると感じている。この制限された生活の中で学校行事や部活動において、生徒が自主的に充実した高校生活を過ごせるような工夫をされているか？

⇒ウェルカムウィークやクラブ活動紹介放送を始めとして、各行事においてクラブ生が中心になる行事に取り組み、クラブ生が学校を引っ張る存在になるよう指導している。その結果、1年生の加入率が昨年の55%から67%に増加した。特に、文化部入部者の増加が大きい。これは1人で動けない生徒が多いと思われる中、文化部合同説明会を開催し、積極的な勧誘をしたことが入部につながったと考えている。一方、昨年の加入率が低かったことが現2年生の層の薄さにつながっている。このため1年生の入部につながらず、今後、競技技術の伝承にも支障が出てくる部も少なくない。

・生徒が地域への活動に参加することが推奨されているが、実情はいかがか？

⇒コロナ感染症の拡大によっては変更があるかも知れないが、ダンス部は地域のお祭りなどのイベントに4～5回参加する予定である。また、生徒会が中区自治推進課の取り組みに協力している。

・ピア・サポート活動を継続的に実践されているが、生徒の理解度や協働する姿勢(チーム作り)などに効果・向上は見られるか？

⇒年度初めの4月に上級生が新入生のHRに参加して、ピアHRに取り組み、生徒会活動への参加も促している。ピア・サポーター(①ピア・サポートの精神を持ち、基本的な知識と技能を有すること。②ピア・サポートの研修と実践が30時間以上あること。③課題レポートを提出すること。)に1名認定された。

・(6月10日に開催された体育祭について)どのようなご苦労・工夫をされましたか？

⇒熱中症対策として、生徒が直射日光を避けるためのテントを15台設置し日陰になる場所をできるだけ多く確保し、応援グッズも兼ねるうちわの使用も許可した。また、PTAより冷やしてあるスポーツ飲料を全員に配布した。また、各団による演技に関しては、ライブ配信を実施することで、テントの日陰でスマートフォンから視聴できる取り組みも実施した。

・演技(ダンス)を配信していただいたが、今後、他の演目を配信される計画はありますか？

⇒今回配信してみて、テントの日陰から生徒も視聴することができ、熱中症対策に一役買うといったうれしい誤算があった。教員数に余裕がないので厳しいが、検討していきたい。

・外部公開についてはどのようにお考えか？

⇒検討していきたい。

・9月の文化祭では外部公開を含めて、どのように取り組まれるか？

⇒生徒の行動の充実具合とコロナの状況を見て保護者公開に関しては判断したい。

・実用英語検定試験の受験者や合格者の増加に向けてどのような取組をされるか？

⇒今年度第1回英検の受験者数が2級22名、準2級28名と、重要性を訴えた成果が現れた。英語科を中心に講習を実施することで合格者の増加につなげたい。

・「生徒が自分の考えをまとめ、発表する機会を積極的に設ける」取組によって、どのような生徒の成長や成果に結びついたか？

⇒43期、44期とAO入試による合格者の増加につながっている。AO入試では志望理由書・活動報告書等の出願書類及び、それらに基づいた面接が重視される。東百舌鳥では常に発表を行い、堂々としゃべり、余裕のある態度につながっている。また、授業最後の振り返りにおいても感想を書かせることで、書く力が増している。

●ご意見・ご感想

・本来の日常に戻りつつある中、この2年間で変化した取組みと従来の取組みをうまくマッチングさせていこうということが分かった。

・コロナ禍であり学校生活において様々な場面で交流することに苦慮されていることと思うが、インターネットを通じて世界とつながるツールがより身近なものとなっている。全国に先駆けICTに取組まれている東百舌鳥高校として発展することを期待している。

・看護コースのカリキュラムについて、認知症サポーター養成講座や地域の福祉・医療施設の理解などに興味・関心が持てるような取組(地域との交流)を期待する。

・大学において、学力は高いが受験勉強ばかりしていた学生は伸び悩む者が多い。一方、AO入試の合格者は自尊感情が高い学生が多い。その高さが次第に大きな力の差となり、自己推薦で合格した学生がトップを取るようになっていく。

・ICTの活用やディスカッション、探究の発表と精緻かつ果敢に挑戦しつつ、随時問い直ししながら修正している姿がよく伝わってきた。

次回の会議日程

日時	令和4年11月8日(火) 14:15 ~ 16:15
会場	大阪府立東百舌鳥高等学校 1階 校長室